



新十津川望郷会

会報 第十九号

望郷会報発刊にあたつて



会報に寄せてのごあいさつ

直接被害にあわれた方々にお見舞いを申し上げます。

私たちは、新聞やテレビの報道でしかその内容を知ることができないのですが、まだまだ復興への道筋が立っていないように感じます。

報道を通して、被災地がふるさとである人達にとっては、自分の脳裏にある街並みが消え去り、友人や隣人を失った悔しさなど、様々な思いを抱いていることと思います。

ふるさと新十津川がいつまでも、記憶の中の美しいふるさとでありますことを願つてやみません。

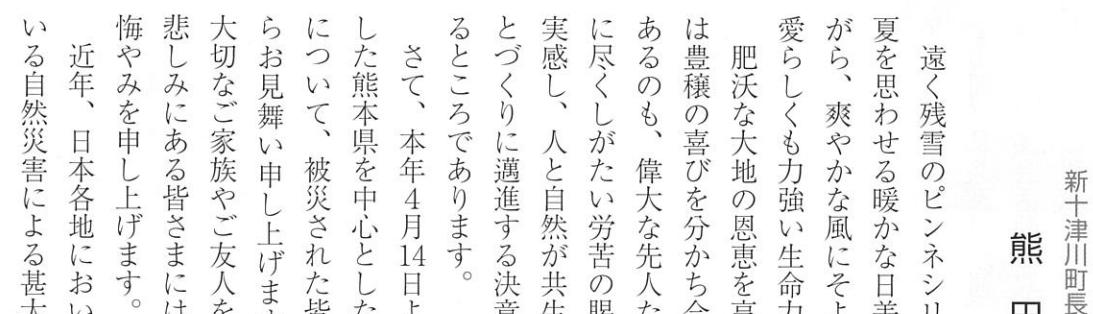
肥沃な大地の恩恵を享受し、秋には豊穣の喜びを分かち合う私たちがあるのも、偉大な先人たちの、筆舌に尽くしがたい労苦の賜物であると実感し、人と自然が共生するふるさとづくりに邁進する決意を新たにするところであります。

さて、本年4月14日より発生しました熊本県を中心とした大きな地震について、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げますとともに、大切なご家族やご友人を失い、深い悲しみにある皆さまには、心からお悔やみを申し上げます。

そのような中、会報によつて、昔を振り返ることができ、また、現在の新十津川の有様を感じることができます。

さて、本年、九州、熊本県を中心とした大地震が発生し、多くの犠牲者が出来ました。ありがとうございます。

ありがとうございました。



新十津川町長
熊田義信

遠く残雪のピッネシリを眺め、初夏を思わせる暖かな日差しを浴びながら、爽やかな風にそよぐ苗の姿は、愛らしくも力強い生命力を感じます。

肥沃な大地の恩恵を享受し、秋には豊穣の喜びを分かち合う私たちがあるのも、偉大な先人たちの、筆舌に尽くしがたい労苦の賜物であると実感し、人と自然が共生するふるさとづくりに邁進する決意を新たにするところであります。

本年は、全国の自治体が地方版総合戦略を実行する「地方創生実行元年」であります。

本町におきましても、魅力ある地方創生を目指し、「新十津川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、時代の変化に対応する農業、商業の支援に取り組み、産業間の多様な交流や連携を進めるための施策、生命と財産を守るために、防災体制を整える施策、子どもたちが、未来を生き抜く力を身につけるための環境、教育を充実させる施策、誰もが心身ともに健康で幸せに暮らせるための施策など、町職員一丸となつて執り進めの勝負の年と位置付けております。

また、これらの戦略を推進するにあたり、本町にとって、強力なパートナーがいることは、非常に重要なことです。これまでの経験から、地域活性化やまちづくりにおいて、民間企業との協同開発が有効であることが分かっています。

一方で、地域社会の持続可能な発展を実現するためには、行政の役割も不可欠です。そのため、本町では、行政改革を推進し、効率的な運営を目指しています。

みみると、行政として取り組んでいかなければならぬことがあります。数多く教示されています。

自主防災組織を含めた防災組織、避難所体制の充実、運営上の準備、水や食料の備蓄はもとより、住宅の耐震診断、耐震補強、公共建築物の耐震性の向上など、本町の防災対策に万全を期すことを肝に銘じることであります。

トナーを得ました。

そのパートナーとは、「北海道日本ハムファイターズ」です。

本年、3月12日、新十津川町と北海道日本ハムファイターズは、それが有する特徴ある資源や取組を有効活用し、連携を深めることにより健康で元気なまちづくりを進めるため、平成28年から3年間のパートナー協定を結びました。

この協定により、球団マスコットB・Bやファイターズガールの町内イベント出演、球団イベントにおける町や特産品の紹介、健康増進のための運動指導、食育活動や食事指導に関する協力のほか、少年少女を対象としたダンスレッスン、少年野球教室が開催されます。

少年野球教室につきましては、球団OBである最高のコーチ陣を招き、5月より、既に3回開催されておりますが、参加した子どもたちは目を輝かせ笑顔に溢れています。

地方創生実行元年の今、本町においても例外なく、急速に進行する人口減少、少子高齢化、地域経済の停滞など、多くの課題を抱えておりますが、その一つひとつに施策を放ち、更なる発展を遂げる所存であります。

ので、今後ともより一層のご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆さまのご健勝と新十津川望郷会のご発展を心からご祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



△北海道日本ハムファイターズ竹田社長と協定の調印

会報に寄せて



新十津川町議会議長

長谷川 秀樹

6月の穏やかな光が大地を緑色に染め上げ、爽やかな風が吹き抜ける季節を迎えました。

新十津川望郷会の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと存じますとともに、日ごろより新十津川町の発展にご支援とご協力を賜っておりますことに衷心よりお礼申し上げます。

さて、昨年行われました町議会選挙から1年余りが経過いたしました。この間、私共議員一同、町の将来を見据え、議会活動に取り組んできましたところでございます。

このことは、北海道新聞にも大きく取り上げられ、北海道町村議会議長会では「入りきれないほどの人が毎回傍聴に来る例はない」とのことであり、町民の皆様のまちづくりにかける思いを強く感じ入ったところでございます。

また、今年5月には、広報広聴特別委員会が広報広聴常任委員会となり、一層の開かれた議会に向け、議会の見える化を進めるとともに、より大きな耳を持ち、町民の方の声に応えるよう議会活動を進めて行こうと考えているところでございます。

つた報告会の開催に努めてきたところでございます。

こういった議会報告会での取り組み、そして初当選の議員が5人という新鮮さの影響でしょうか、定例議会での一般質問は、毎回40人近い傍聴者が詰めかけ、定員24人の傍聴席からあふれる状態が続いております。

今年の第1回定例議会の一般質問では、傍聴席に入れなかつた方のために、初めて別室にモニターを設置し、議場の様子を映し出すなど、町政に関心を持つた町民の方々に広く議会活動の一端を見ていただきました。

さて、「ふるさと」は、すべての人たちにとつて命を蘇らせ、心を安寧にしてくれる潤いの場であります。人口減少問題や少子高齢化、国際化、地方分権の推進など時代の潮流は、わが町にも押し寄せておりますが、この生まれ育った樺戸山地のふもとに広がる四季折々の草木、肥沃な美田と自然の恵み、そして私達を育み、夢を拓いてくれた先人達の思いに応えるには、この町が今後も継続し、発展することにより、新十津川町を離れた方々が、遠くから故郷を思う時、自然が美しく溶け合っている新十津川町の風景を、やさしさとおおらかさに満ちた人たち、そして、そこに自分自身がいたことを、きっと思い出してくれることと思います。



△別室に設置されたモニターで一般質問の様子を視聴する傍聴者

さて、「ふるさと」は、すべての人たちにとつて命を蘇らせ、心を安寧にしてくれる潤いの場であります。人口減少問題や少子高齢化、国際化、地方分権の推進など時代の潮流は、わが町にも押し寄せておりますが、この生まれ育った樺戸山地のふもとに広がる四季折々の草木、肥沃な美田と自然の恵み、そして私達を育み、夢を拓いてくれた先人達の思いに応えるには、この町が今後も継続し、発展することにより、新十津川町を離れた方々が、遠くから故郷を思う時、自然が美しく溶け合っている新十津川町の風景を、やさしさとおおらかさに満ちた人たち、そして、そこに自分自身がいたことを、きっと思い出してくれることと思います。



△満席となった傍聴席、4回連続の満席は、新聞報道にも大きく取り上げられた。

をつなぐ場として益々発展されますことと、会員の皆様の更なるご健勝、ご活躍をお祈り申し上げ、会報に寄せての言葉とさせていただきます。

「広報しんとつかわ」の購読をはじめませんか？

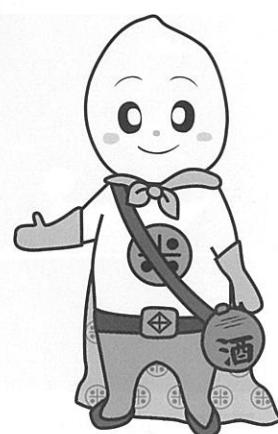
毎月15日に発行している町広報誌「広報しんとつかわ」の購読をはじめませんか？

「広報しんとつかわ」は、主要な町政課題や政策、町の新しい動きなどを特集するとともに、町民生活に密着した生活情報、議会情報のほか、まちの出来事、活躍している人や団体の紹介など、様々な「新十津川の情報」を掲載しています。

購読料：年間 960円（送料込 4月号から翌年3月号まで）

購読を希望される方は・・・

- 1 新十津川望郷会事務局へご連絡ください。連絡いただくのは、氏名、住所、電話番号です。
- 2 振込手数料のかからない振込用紙を送付いたします。
- 3 振込が確認できましたら、4月号から振込いただいた月の号までまとめて郵送します。
- 4 翌月より毎月号を郵送します。
- 5 翌年4月にその年の購読確認をさせていただきます。
ぜひご検討ください。



**望郷会会員の皆様から
寄稿文を
いただきました。**



月形町から故郷を偲ぶ

とがありませんでした。これを書くにあたり、「十津川出国記（川村たかし著）」と「新十津川百年史」を読み、神武天皇東征の八咫烏神話・壬申の乱から明治維新までのその時々の皇族との関係が、高祖父のみならず十津川郷士全ての人が持ち「特別な気質」につながっていることを理解しました。

一昨年より望郷会総会・式典に参加をさせて頂きました。会員皆様の

新十津川町に寄せる思いの強さと、年に、心から感謝申し上げます。私が望郷会に入会しましたのは一昨年であります。父の従兄弟であります橋本英正様（北広島市在住）が、新十津川町で行われている「開町式典」は、嚴かで町祖となられた人々への敬愛と感謝が伝わってくる素晴らしい催事なので望郷会員となり出席してはと強く勧められたことがきっかけでありました。

私の父方の高祖父橋本信吉は、奈良県十津川からの一次入植者であります。父からは郷士の誇りを強く持つた人と、それ以外の話は聞いたこ

る町です。初代典獄（現刑務所長）月形潔の名が町名になっています。当時の集治監使命は北海道内陸部開発の為のインフラ建設であります。道路開削・橋梁建設・河川整備・屯田兵舎の建設であります。十津川移民の通った道・橋・越年の屯田兵舎は、樺戸・空知両集治監因徒の関わりがありました。

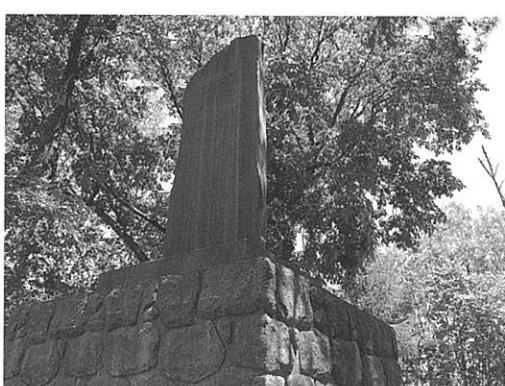
月形町歌は昭和15年、私の母校でもある札比内小学校校歌は昭和27年の制定ですが、その作詞者は松実菱三氏であり、十津川移民松実菊治氏二世であります。式典参加の折、開村記念碑の篆額揮毫が土方久元伯爵であることに驚きました。月形町生みの親月形潔追悼碑は、明治34年建立ですが撰文は同じく土方伯爵です。月形潔と土方は福岡勤皇党と七卿落ちの供回りの関係であり、十津川移民の際には宮内大臣として、天皇よりの御下賜金の関わりです。浦臼町はかつて月形町からの分村ですが、前述松実菊治氏は、浦臼村宮撰村長もされていました。何か新十津川町と月形町との縁を感じるものでした。

明治2年7月北海道開拓使設置から始まる百四十七年の北海道開拓の歴史、その中には多くの先人の尊い

犠牲と命を賭しての挑戦のお陰で豊かな今があることに心から感謝をするものです。私の体に流れる十津川郷士の血を感じながら、今年も「新十津川開町百二十六年式典」に参加をさせて頂きます。



△毎年、開町記念式典の中で副町長が「告諭」を朗読する。



△菊水公園内の開村記念碑

**札幌新十津川郷友会より
望郷会員の皆様へ
お知らせです。**



札幌新十津川郷友会事務局長

橋本英正

さて、地域別の活動も行われておりました。しかしながら、これらの会員の高齢化、新規会員の加入激減等で、会の活動の衰退が続いていたことから、さっぽろ大和会は平成25年に解散、さっぽろ吉野会は、平成26年に解散し、その後、有志で懇親会を開催していると聞いており、また、中央会は平成26年から活動を停止し、この度の再生総会で正式に解散致しました。

札幌新十津川郷友会（以下「郷友会」という。）の再生総会・懇親会が4月16日（土）にすみれホテルで開催されました。

郷友会（当初は「新十津川郷友会」）は、札幌市及びその近郊住宅の新十津川出身者並びに縁故者、会員相互の親睦と郷土新十津川町並びに新十津川望郷会の発展に寄与することを目的として、昭和6年5月に設置され、戦中に活動を中止し、昭和28年2月に再開されて、今日まで活動を続けて参りました。この間、昭和30年にさっぽろ吉野会、昭和48年にさっぽろ大和会、昭和56年に札幌花月会、更に昭和63年に中央会が設置

会を開催することを決定し、会員の皆様に「今後の最大の課題は、いかに会員の拡大を図っていくか」ということで、知人の紹介をお願いしたところであります。望郷会の皆様におかれても、札幌圏にお住みの方で郷友会に未加入の方は是非ともご参加いただくとともに、新十津川出身者や縁故者の情報を事務局にご連絡下さるようお願ひ致します。

再生した郷友会は、望郷会の皆様のご協力、ご支援を頂きながら、会員の皆様のご尽力により、一歩一歩確実に郷友会の輪を広げて、継続発展するよう、努力してまいります。

このような状況を踏まえて、これまで各会の会員を「郷友会」会員の扱いとしていたのを、直接「郷友会」会員となつていただくこととし、昨年12月から過去の郷友会に参加いただいた際の住所等を参考にして、ご参加を呼び掛け、会員44名で再出発することになりました。

再生総会・懇親会は、故郷新十津川町長熊田義信様、北海道議会議員釣部勲様の御来賓を始め36名（当日1名の欠席）の多数のご出席を頂き、盛大に開催され、楽しい一時を過ごすことができました。

再生総会では、会則の改正や和平康伸氏を会長とする役員の選出を提案通り承認頂き、更に毎年5月に総

札幌新十津川郷友会

会長 和平康伸
事務局長 橋本英正
連絡先（事務局長宅）
061-1147
北広島市里見町5-2-7
電話：(011) 373-4226

札幌圏

新十津川望郷会砂川支部

支部長 高村雄渾
副支部長 上杉一正、永澤義人

砂川

新十津川望郷会滝川支部

支部長 丸山 健
副支部長 西井勝明

滝川

新十津川望郷会深川支部

支部長 杉村 修
副支部長 伊藤邦雄

深川

徳富会

支部長 松倉幹男
副支部長 篠内 悟

関東

各支部の活動に興味のある方は、新十津川望郷会事務局までご連絡ください。

新十津川町トピックス

～まちの出来事～



平成27年6月1日 地域おこし協力隊第1号着任

新十津川町第1号の地域おこし協力隊として、高野智樹さん【埼玉県出身】が着任しました。現在は、宍戸知介さん【札幌市出身】、金糞一朗さん【札幌市出身】の3名が着任し、新十津川町の魅力を発信、まちの盛り上げに尽力いただいています。

平成27年7月8日

誕生記念品「キッズチェア」贈呈式

平成27年度から、お子様の誕生記念に母村・奈良県十津川村のヒノキ材を使用した組み立て式キッズチェアの贈呈事業がスタートしました。

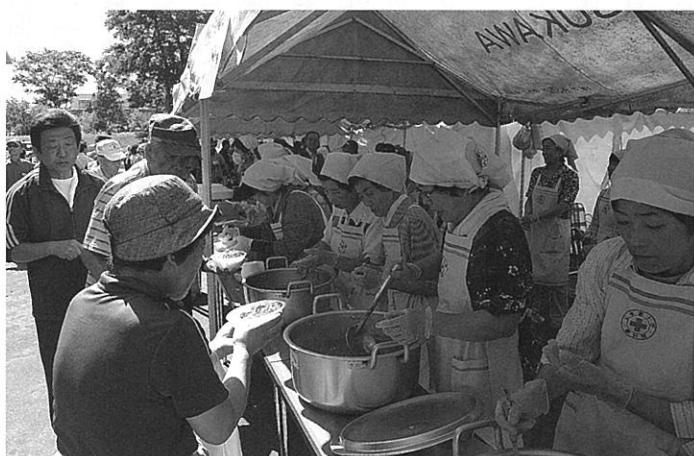
この日は初めての贈呈が行われ、4月生まれのお子様4人の母親一人ひとりにキッズチェアが手渡されました。



平成27年8月30日 3年に一度の防災訓練

大型の台風による水害を想定した防災訓練が、スポーツセンターを避難所として行われました。

329人（うち避難住民189人）が参加し、避難所の開設や避難所までの移送訓練、避難所体験や消火体験、道防災ヘリによる吊り上げ救助を見学し、防災意識を高めました。



平成27年9月9日

十津川中3年生修学旅行で来町

十津川村中学校3年生が修学旅行で本町を訪れ、昨年に続き、新十津川中学校で交流会が行われました。両校の代表生徒がそれぞれの学校を紹介し、校歌を披露した後、全員で合唱、楽しい時間を共有しました。



平成28年2月5日

給食に酒米米粉パン登場

新十津川小学校の給食に、金滴酒造の酒米の米粉を使った米粉パンが登場しました。

児童たちは「もちもちしていておいしい」と米粉パンを堪能していました。

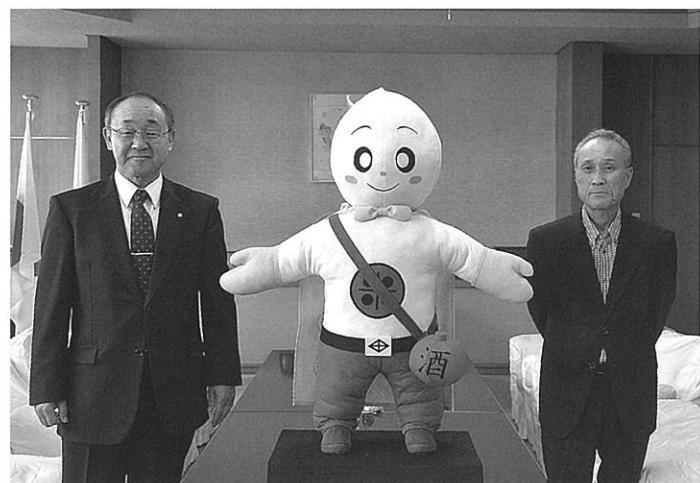


平成28年3月12日

北海道日本ハムファイターズとの パートナー協定締結

北海道日本ハムファイターズとのパートナー協定調印式が行われ、約350人の来場者が協定の締結を祝いました。

調印後には協定の締結を記念して、北海道日本ハムファイターズSCの稻葉篤紀さんによるトークショーが行われたほか、調印式の前には、パートナー協定事業として、北海道日本ハムファイターズダンスアカデミーインストラクターの田村優佳さんを招き、親子ダンス教室が開催されました。



平成28年4月12日

手作りこめぞーの贈呈

町内在住の大関隆志さんから、本町の観光PRキャラクター「とつかわこめぞー」の手作り人形が贈られました。(大きさ1メートル、制作期間1ヵ月)

大関さんは、制作について「頭は球体なので、型紙作成から試行錯誤し、表情の再現も難しかった」と話していました。

全国大会・全道大会へ

新十津川小学校 新十津川尚武会

平成27年6月21日に開催された「第39回北海道道場少年剣道大会」(全日本剣道道場連盟主催)【苫小牧市開催】で、新十津川尚武会が団体小学生の部で3位に輝きました。

第64回北海道少年剣道錬成大会で見事、団体優勝しました。本大会は昨年に続く優勝で、初の連覇を達成した尚武会少年部は、9月20日に開催される全国大会「第10回全日本都道府県対抗剣道優勝大会」【大阪府開催】に出場しました。

平成28年1月4日から開催された「鷹揚旗小学校選抜剣道大会」【青森県開催】で見事優勝しました。

平成28年1月11日に開催された「第38回北海道地区剣道少年団体験発表会」【札幌市開催】で高橋賢新くんが最優秀選手賞に輝き、全国大会に出場、敢闘賞を受賞しました。

羽ばたく! 新十津川っ子!!



新十津川中学校

吹奏楽部

平成27年8月21に開催された「第60回北海道吹奏楽コンクール空知予選」で金賞に輝き、3年連続3回目の全道コンクール出場を決めました。

8月29日に行われた「全道大会」【札幌市開催】では銅賞という好成績を収めました。

卓球部（3年 後木玲奈さん）

新十津川中学校3年、卓球部の後木玲奈さんが7月31日から8月2日まで開催された「中体連全道大会」【中標津町開催】で準優勝に輝き、3年連続で、全国中学校卓球大会への切符を手にしました。

8月21日から24日まで開催された「中体連全国大会」【宮城県利府町開催】では、3回戦まで勝ち進みベスト32という好成績を収めました。

剣道部

新十津川中学校剣道部が平成28年1月11日に開催された「第16回北海道中学校新人剣道大会」【千歳市開催】男子団体の部で7年ぶり7回目の優勝に輝きました。

新十津川農業高校

園芸専門部会（2年）

平成27年6月27日から7月5日まで開催された道内高校生を対象とした「第6回ガーデニング甲子園」（11校14チーム参加）【札幌市開催】に、農業高校の2年生が「魅緑の里 2015 小屋と緑のナチュラルガーデン～新農スタイルガーデンの提案～」を出品、初の大賞を受賞しました。



園芸専門部会（3年）

平成27年7月25日から8月9日まで開催された全国の大学生、高校生を対象とした「ガーデニング甲子園 自然を愛する学生たちの大祭典」【岩手県雫石町開催】に、農業高校3年生が「故郷の庭」を初出品、初優勝を成し遂げました。



園芸専門部会（3年）

平成27年9月5日から27日まで開催された全国の社会人、学生を対象とした「第2回全日本フラワー&ガーデン選手権」【岩手県雫石町開催】に、農業高校3年生が「故郷の庭」を初出品、銀賞を受賞しました。



加工専門部会

加工専門部会の池田奈央さん（3年）、兼平愛菜さん（2年）、佐々木桜さん（2年）が、平成27年10月4日に開催された「パン甲子園 2015 inいわみざわ」に出場、「とろっと人参コロッケバーガー」を出品し、準グランプリを受賞しました。



3年 池田奈央さん

農業高校の池田奈央さん（3年）が日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技の生活科学コースに出場し、見事優秀賞に輝きました。



《名刺をつくりませんか?》

望郷会PR事業の一環として、会員の勧誘や日頃のお仕事で新十津川町をPRしていただくため、町の風景や建物を入れたオリジナル台紙を活用し、望郷会員の希望者の方に名刺をお作りします。

名刺は、1種類100枚単位とし、会の予算で作成しますので、ご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

申込先 新十津川望郷会事務局
(新十津川町役場 総務課総務グループ)
電話 0125-76-2131
FAX 0125-76-2785



新十津川望郷会役員

任期期間 平成26年6月20日～平成28年6月19日

(敬称略)

| 役職名 | 氏名 | 住 所 | 電話番号 | 備 考 |
|-------|---------|-----|------|-----------|
| 顧問 | 熊田 義信 | | | 町長 |
| | 長谷川 秀樹 | | | 町議会議長 |
| 会長 | 高 梓 政義 | | | |
| 副会長 | 谷 口 次 雄 | | | 道東 |
| | 中 川 昭 五 | | | 道南 |
| | 川 井 正 修 | | | 道北 |
| | 中 井 唯 夫 | | | 道央 |
| 理事 | 和 平 康 伸 | | | 札幌郷友会 会長 |
| | 杉 村 修 | | | 深川支部長 |
| | 玉 堀 光 夫 | | | 札幌郷友会 相談役 |
| | 西 井 勝 明 | | | 滝川支部副支部長 |
| | 中 川 芳 繼 | | | 花月会 会長 |
| | 松 倉 幹 男 | | | 徳富会 会長 |
| 監事 | 村 上 新 一 | | | 砂川支部長 |
| 事務局長 | 小 林 透 | | | 副町長 |
| 事務局次長 | 久保田 純 史 | | | 教育長 |
| 事務局 | 寺 田 佳 正 | | | 総務課長 |
| | 媚 山 孝 裕 | | | 総務課主幹 |

会員の皆さまへ(お願い)

新規望郷会員のご入会を募るため、同窓会などの集まりが開催されるときは、事務局まで、ご連絡をお願い申し上げます。(望郷会新規会員募集のチラシを送付させていただきます。)

| | | | |
|--|--|--|--|
| <p>印刷 トータル・プランニング</p> <p>☎ 一二五一七六一一二二三一 小林透</p> <p>新十津川町役場内 事務局長(新十津川町副町長)</p> | <p>新十津川望郷会会報 第十九号</p> <p>発行 平成二十八年六月二十日発行 新十津川町字中央 〒〇七三一ー〇三 三〇一番地一</p> | <p>(投稿される方には原稿用紙を送付させていただきますので、事務局までお電話等でご連絡くださいますようお願い申し上げます。)</p> <p>(投稿される方には原稿用紙を送付させていただきますので、事務局までお電話等でご連絡くださいますようお願い申し上げます。)</p> <p>新十津川望郷会報第十九号を発刊するにあたり、役員並びに会員の皆さまには様々なご協力を賜り、心からお礼申しあげます。次号の発刊に際しては、会員の皆さまから多くのご投稿をお待ちしております。</p> | <p>新十津川望郷会報第十九号を発刊するにあたり、役員並びに会員の皆さまには様々なご協力を賜り、心からお礼申しあげます。次号の発刊に際しては、会員の皆さまから多くのご投稿をお待ちしております。</p> |
|--|--|--|--|

編集後記